

なぎそ 議会だより

広報

議会だより

公民館報

令和6年 6月全員協議会

議会だより 目次

11 P

6月全員協議会が、6月10日と24日に開催されました。

☆全員協議会

12 P

以下の7項目を協議しました。

- ・第11次南木曽町総合計画の策定について
- ・南木曽町地方創生総合戦略第2期計画の見直しについて
- ・田立元組第2団地造成計画について
- ・関西電力による鉄塔の工事説明について
- ・南木曽会館、総合グラウンド周辺公共施設将来構想について
- ・南木曽町健康づくり計画等について
- ・南木曽町国土強靱化計画の改定について

☆各種報告

14 P

- ・木曽郡町村議会議員総会
- ・リニア新幹線対策特別委員会

議会の主な動き (3月定例会閉会以降を記載)

3月		5月	
15日	南木曽小学校卒業式	17日	木曽郡植樹祭
18日	南木曽中学校卒業式		議会のあり方研究特別委員会 正副会議
21日	リニア新幹線対策特別委員会	21日	新人議員研修
26日	なぎそこども園卒園式	23日	全国治水砂防協会第88回通常 総会
	第41回リニア中央新幹線対策 協議会		
4月		6月	
31日	南木曽町消防団入団式	24日	議会報編集特別委員会
3日	なぎそこども園入園式		リニア新幹線対策特別委員会 議会のあり方研究特別委員会 議会運営委員会
4日	南木曽小学校入学式	28日	木曽広域連合議会第2回定例会
	南木曽中学校入学式	29日	第42回リニア中央新幹線対策 協議会
	議会報編集特別委員会		
16日	南木曽町議会議員一般選挙 告示		
21日	南木曽町議会議員一般選挙	3日	議会運営委員会
22日	南木曽町議会議員一般選挙 当選証書附与式	7日	木曽郡消防ポンプ操法大会 出場チーム壮行会
23日	初議会及び第2回臨時会	10日	6月定例会
	議会報編集特別委員会		全員協議会 総務文教常任委員会 議会報編集特別委員会 議会運営委員会 6月定例会 (南木曽小学校6年生傍聴)
		13日	議会報編集特別委員会
		21日	6月定例会
		24日	全員協議会 議会報編集特別委員会



議会と町の意見交換 全員協議会

(6月10日・24日)

全員協議会とは…

議会独自の運営協議、議員間の意見調整、本会議審議中における協議、執行機関と議会側の意見調整などを行うための場で、議会の開会中及び閉会中にかかわらず議長の招集により開催し、公開を原則とします。

第11次南木曽町総合計画の 策定について

【説明概要】

第10次町総合計画と町地方創生総合戦略第2期計画を統合したもので、期間は令和7年度から令和16年度の10年間とします。総合計画とは町全体の発展、調整を計画的に運営していくためのもので、総合戦略とは総合計画に掲げる将来像を継承しながら人口減少の歯止め、人口減少社会の中で幸福な暮らしの維持を展開していくためのものです。これら2つを一体的に進めるための統合です。従来の政策を踏襲しつつ、町長政策及び国より示されているデジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案した改定となります。

【協議の状況】

- ・長いスパンになった際、状況の変化に対応が難しいのではないかな。
- ・政策に対しての結果検証が必要。
- ・過去10年の戦略運営で人口減少問題に関してはうまくいってきていない。
- ・戦略や分析は大事だが結果が伴う行動こそが大切なのでは。

南木曽町地方創生総合戦略 第2期計画の見直しについて

【説明概要】

町地方創生検証会議と町地方創生戦略会議にて、各委員から出された意見を基に毎年見直しを行っていきます。計画本文の見直しを必要とした箇所へ新たに文言などを追記しました。

【協議の状況】

●計画の実行性

- ・この計画を進めていくことが非常に大事で、妻籠宿の保存計画の見直しの検討についても「売らない貸さない壊さない」という住民憲章が、ある意味収入財産の制限にもなっていること、保存と活用もあり方等財団法人を含めて今後の議論が必要だ。強力なリーダーシップを発揮して、言葉だけでない戦略の実行を要望する。
- 今後の課題
 - ・総合戦略の一番根本的な問題として人口減少がある。実際に10年間やってきた中で、国が示した以上に人口が減ってきていることへの検証が、今後の計画を立てる上でも一番重要な課題ではないかな。

田立元組第2団地造成計画について

【説明概要】

田立元組の社会福祉協議会下方の町有地(8000㎡)、民有地(2000㎡)に宅地造成事業を計画し、令和6年度は宅地7区画、うち2区画は社会福祉協議会の駐車場と倉庫等の移転地になります。事業費は合計8270万円です。

【協議の状況】

●事業費と財源

今回交付税の措置がない地域開発事業債が財源の約9割を占めることについて、売り払い価格は過去の基準的な価格に造成費等の金額をプラスする予定であること、財源不足分は町の繰り入れで行うとの説明であった。

●区分譲方法

区分面積は住民アンケートや希望者との面談などから、約120、150坪の面積にしたこと、町の造成事業は個人への販売となっており、民間企業等への販売は検討していないといった説明があった。

●立地・施工条件

造成に伴い表土の搬出量が約3000㎡、盛土材等の搬入土の搬入を約1500㎡予定している。地すべりへの懸念と対応や、山からの水の処理、埋蔵文化財についてなどの要望があった。また盛土材の搬入に相当の金額が必要でリニアの発生土の活用を検討しているとの説明もあった。

●町道位置と排水路

排水路や道路等に関して、造成面積約10000㎡は広大であるためこの団地だけの問題でなく、福祉施設が隣接するため道路は2系統必要で、主要地方道中津川田立線まで持っていく、排水路に沿った町道の計画などの指摘があった。町も主要地方道から上がる町道は検討したが、勾配があり難しいと判断して詳細検討はしていないとの説明があった。

関西電力による鉄塔の工事説明について

今回の鉄塔は目立たない色で更新

「住民の声や議会からの意見が反映される」

【説明概要】

関西電力の鉄塔工事の更新事業は、これまで木曽幹線と須原大井線の2系統について経年劣化により系統の一部をまとめる工事などが進められてきており、大桑線（大）No.42、No.49改良工事についての報告がありました。

【工事概要】

- ・規模：南木曽駅裏山で既設鉄塔の除却が6基、鉄塔の新設が4基で、60、70mの高い鉄塔に建替える。
- ・工期：10月から仮設工事が始まり、基礎工事等は今年度末、令和8年3月までの予定。
- ・景観：新設鉄塔は低明度処理の鉄塔とし、木曽町で更新した鉄塔のように黒に近いグレーの色で、あまり目立たない外観に更新をしたい。
- ・資材運搬：基本的にヘリでの資材運搬は一切行わずモノレールによる資材運搬を行う。
- ・地元説明会：盆明けあたりで準備している。

【協議の状況】

●工事の方法

・ヘリコプターを使わず爆音が聞こえないので大変いい。

●鉄塔の低明度処理

今回の鉄塔新設では低明度処理を行うという説明に対して、以下のような疑問や意見があった。

- ・前回は景観色使用を要望したが事業者側から経費面から断られた経過がある。今回なぜ景観色で塗装できるのか。また前回の鉄塔にも塗れないかと住民から要望が出ると思うが町は要望したのか。
- ・今回建て直すときまた100年鉄塔が建てつづき、また建替えになるかもしれない。美しい村連合に入っている町でもあり、すでに完成した鉄塔も今回のような目立たない色に変えてもらうよう努力をしていただきたい。

●環境アクセスとの関係

高い鉄塔を作るときの環境アセスの取り扱いについて県への確認や、町から意見をしている

かとの問いには、県のアクセスの条件は送電線の電圧17万ボルト以上と定められており、現在進めている最高15万4000ボルトの鉄塔は対象外となっているとのこと。

●事業者の対応への意見等

前回もう少し頑張って運動すれば前回も低明度になったかもしれないといった趣旨の意見や、この件に限らず一歩踏み込んだことができるように、自治体の意見を尊重してほしいという申し出を関西電力にしてほしい、との意見があった。町は口頭でも意見は伝えるとともに、意見書にも地域の意見を反映するよう記したと述べ、説明会などで声を出せば事業者の参考にもなるかと思うとの見解を示した。

さらに、意見がなければやらないとも聞えるので、今回なぜそうなったのかなどの経緯を、事業者や県も含め見解を文書なりで示してもらいたいとの要望には、町から事業者に確認すると回答があった。

（全協後の事業者からの回答は右下の資料参照）



資料：鉄塔更新工事に関する質問への回答概要（R6.7.3）

Q 昨年度更新の鉄塔は銀メッキ色だ。低明度処理にならなかった理由は？

A 現行（建替え前）の景観を維持するといった考えから、現行同色として設計し、妻籠宿保存地区保存条例に基づく許可をいただいたため、それ以降に建替えの鉄塔についても、現行同色とした。

Q 木曽町の鉄塔の色が初めから低明度となった理由は何か？

A 建替え前の鉄塔が茶色であったため、同色に近い低明度処理を採用した。

Q 更新工事が完了している鉄塔について、低明度処理等を行えないか？

A 鉄塔部材の製作過程で、専用工場ですら表面処理をしており、既設にはできない。

南木曽会館、総合グラウンド周辺 公共施設将来構想について

【説明概要・経緯】

現渡島テニスコート敷地に親子ふれあい公園設置の構想があったが、建設から45年経過している南木曽会館の建替えを踏まえて検討すべきとの意見を受け、南木曽会館・総合グラウンド周辺の公共施設を総合的に検討していきたい。については現段階での意見を議会側に求めたい。

【協議の状況】

●町の考え

- ・施設整備の時期：10年構想
- ・場所の安全性：どのような施設が必要かの議論。護岸の整備などの防災対策も考える。
- ・教育施設との関係：本年度以降こども園や小学校のあり方を、専門性のある方も含めて検討できる場を設けていく。

●議会からの懸念事項

- ①地形的な条件から見ての安全性。
- ②右岸道路を国道へ繋ぐルート案の検討など、県・国の構想も視野に入れ考えるべき。
- ③南木曽町が、どういう町づくりをしていくのかという位置づけで考えるべき。
- ④小学校・中学校の運営、統合等も視野に入れ考えるべき等。

●構想において取り入れたい施設の要望

- ①子ども連れで遊びに行ける公園
- ②ショッピングセンター等の商業施設
- ③入居しやすいアパート
- ④コンサートホールを兼ね備えた文化施設

南木曽町健康づくり 計画等について

【説明概要】

従前の「健康づくり計画」・「高齢者福祉計画」・「障害者福祉計画」の3計画が令和6年3月末をもって満了したことに伴い、新たな計画を策定しました。

南木曽町国土強靱化 計画の改定について

【計画の概要】

国の閣議決定に伴い、町の計画を改訂しました。事前に備えるべき目標が8項目から6項目に見直され、旧版第7項目「制御不能な複合災害2次災害を発生させない」は、全ての項目に関連するという理由で項目自体が削除され、他の項目へ溶け込んだ状況になりました。

【協議の状況】

旧版第7項目の文言は残した方がよいとの意見があり、検討した結果、計画の「第3節 起きてはならない最悪の事態一覧」の冒頭の文書にこの文言を追記し、後から見ても旧版第7項目が溶け込んでいることがわかるという変更をした。

報告 令和6年度 木曽郡町村議会議員総会

8月1日、令和6年度木曽郡町村議会議員総会を上松町ひのきの里総合文化センターで開催しました。

来賓として長野県議会大畑俊隆議員、郡内6町村長、木曽地域振興局長らが列席しました。総会後の研修会では「野生鳥獣の被害対策について」を県林務部塚平課長から、「木曽郡内の状況及び対応について」を木曽地域振興局林務課下澤専門

員からご講演いただきました。

総会では前年度決議事項の処理報告に続き、各町村議会と町村議会議長会からは、以下6つの議題が提案され承認されました。南木曽町からはインバウンド観光客の増加などに対し、「木曽地域における外国人観光客の受け入れ態勢について」を矢澤和重議員から提案しました。

総会提出議題

1. 支障木伐採による安全の確保と美しい景観の創出について（木曽町）
2. 空き家対策に関する支援の充実強化について（上松町）
3. 木曽地域における外国人観光客の受け入れ態勢について（南木曽町）
4. 少子化による学校統合の教育課題について（木祖村）
5. 木曽地域の防災強靱化について（大桑村）
6. 木曽地域の道路交通網の整備と木曽川の治水について（木曽郡町村議会議長会）



◀総会の状況



◀提案する
矢澤議員

委員会報告

リニア新幹線対策特別委員会

7月9日に本委員会を開催し、町の担当者からJR東海の資料などに基づいて、南木曾町内の工事進捗状況及び今後の見通し、住民説明会についてなどの報告がありました。

(1)第43回リニア中央新幹線対策協議会への意見集約のための説明・報告概要

○第42回対策協議会の報告

○広瀬・尾越・山口各工区の進捗状況について

- ・広瀬工区：蘭川左岸上流の非常口ヤードにベルトコンベアを設置中。
- ・尾越工区：斜坑230mまで掘削中。
- ・山口工区：本坑は長野県境まで100mの所まで掘削中。

○住民説明会：6月24日（広瀬）・25日（蘭）・7月1日（妻籠）で開催。住民説明会での質問と回答。

○工事の状況：JRは、令和元年8月に南木曾町と取交わした「中央新幹線建設に伴う工事に係る確認事項」に基づき工事を進めている。

- ・広瀬工区のトンネル掘削を令和6年7月下旬から開始する予定。
- ・広瀬工区のストックヤードの面積8,000㎡、高さ5m、盛土量30,000㎡。
- ・広瀬工区の本線トンネルのみ覆工・路盤コンクリートを施工。

○発生土の処理

- ・発生土置き場候補地の状況。
- ・発生土置き場への運搬完了…十二兼右岸道路2.6万㎡、神坂0.8万㎡。

○車両通行について

- ・土砂運搬車両、生コン運搬車両にGPS車両運行管理システムを搭載して安全運行に努めている。また、これまでに町道棚橋線、町道起線、町道十二兼線の道路改良もしてきた。今後は町道中市木線を予定。

○環境保全の状況

- ・広瀬工区…令和2年8月公表の保全計画に沿って施工（変更なし）。
- ・尾越工区…令和2年12月、令和5年6月公表の保全計画（ヤード造成等/トンネル掘削作業）に沿って施工。
- ・地下水・水資源・水質に関して

工事着手前、工事中、工事完了後に河川等の状況を定期的に監視。トンネル内湧水も確認。万一工事中に減水・渇水の兆候が見られた場合には、水利用者の生活に支障をきたさぬよう代

替水源の確保等の対策を実施する。水質については、工事排水の適切処理、水質（PH、浮遊物質、重金属等）・水量・水温の監視、処理設備の点検整備を行う。

・土壌汚染に関して

トンネル掘削土の重金属等の調査を掘削日ごとに1回/日実施。土砂ピットは3日分の発生土を1日分ずつ分けて仮置きできるよう3分割構造とする。

・水質・水源の事後調査・モニタリング計画

調査結果は年度ごとに県と町に報告。異常値が認められた場合は報告し、対応策を講じる。必要な場合、保全措置の追加・変更を実施。

・水道水源予備的措置に関して

妻籠・向ヶ原・大山高区の3水源が接続され、妻籠への送水が可能となった。代替水源関係の仮施設は令和7年度上期に完了予定。

○工事工程の見通し

- ・広瀬工区の掘削完了時期は4年半遅れの2030年。尾越工区は2029年。

(2)リニア計画全体に対する審査意見

○広瀬工区の環境影響調査ではベルトコンベアを使用する記載がないが、騒音値はどれくらいを想定しているか。

○広瀬工区蘭川左岸下部ストックヤードについて、JRは県の盛土条例に基づく申請書を提出したという。申請に伴って提出する南木曾町の「意見書」は協議会に示すこととなっているがまだ出ていない。

○広瀬工区の非常口トンネルを覆工しないのは非常口として使わないということか。

○尾越工区の発生土置き場候補地、押出南は砂防指定地であることから、リニアだけでなく国道256号改良工事の発生土置き場に活用するなど、JRと県で協議して進めてはどうか。

○工事の見通しが示されたが、リニア新幹線そのものの開業時期はいつになるか。

○確認書に書いてある河川、池、農業水利などの減水・渇水が生じた場合の補償期間は30年でいいのか。

○確認書に示してある男埴川の正常水量が未だに設定されていない。

○山口工区の南木曾町側の環境保全計画を知りたい。

➡以上の項目については対策協議会にて質問される予定です。

（文責：山崎隆二委員長）